



医療法人 アスムス

〒323-0014 小山市大字喜沢1475番地328 TEL0285(24)6565/http://www5.ocn.ne.jp/~kiboukai/

地域包括ケアシステムの構築を目指して

～地域連携と多職種協働の推進～

平成24年度 在宅医療連携拠点事業

地域の産業との複合体 医療・介護専門職を超えた多機能施設連携モデル



蔵の街診療所



おやま城北クリニック



地域連携

行政・地区医師会との連携

◆小山市◆

- ・災害時対応をテーマに、市役所の関係部署と共催で「災害時対応出前講座」

◆栃木市◆

- ・栃木市は「社会福祉推進委員会」を設置するなど高齢者福祉にも力をいれている

- ・市医師会「在宅医療推進委員会」を開催し今年度、拠点事業に位置付け、行政も参加「栃木市地域包括ケア推進ネットワーク」（「栃木市あったかネット」）スタート予定)

- ・歯科医師会とケアマネージャーの研修会を開催（栃木・小山地区合同）



- ・拠点が医師会有志に在支診、強化型在支診推進のための学習会開催

多職種連携 蔵の街コミュニティ研究会

◆ 2000年4月発足 栃木市 市民主導型 ネットワーク活動

◆ 発起人

医師、薬剤師、社会福祉士(ケアマネージャー)、保健師、介護福祉専門学校講師、
民間介護事業者、工務店経営者(住宅改修)、栃木市介護保険担当行政官



多職種連携
現在 リーダーは薬剤師

◆ 設立趣旨 ◆

在宅介護を支えるため、医師、看護師、薬剤師などの専門職だけでなく、地域に暮らす全ての人々全体の介護力を高め、「幸せに生きる」コミュニティの実現を目指す。

◆ 活動実績及び会員集 ◆

- 定例会開催 72回(2000年4月～2012年10月)
- 会員300名以上(発足時 約40)1回の定例会参加、約20名～70名
- 懇親会参加人数、約15名～20名

在宅ケアネットワーク栃木(1997年開始)、
蔵の街コミュニティケア研究会

の活動から見えてくること

- 多職種間の交流を深め、異なる職種の職能を理解し・言語を知り・精神文化にふれることができる。
- 理念や目標を共有することができ、それぞれの役割が見えてくる。
- 質の高い利用者本位のケアの提供につながる。
- チームとして多角的・多面的に、利用者とかかわることができる。

啓 発 活 動

在宅での療養・看取りは「文化」であるとの視点

専門職の学習理解の場の提供と合わせ、市民向けの啓発活動に取り組んでいる

市民フォーラム開催

- 9月9日 市民フォーラム** 地域包括ケアシステムを考える～住み慣れたわが家で最期まで
基調講演 石飛 幸三先生 「口から食べられなくなったらどうしますか」
シンポジウム 「つむぎ、つなぎ、つながる医療をはぐくむ」
- 11月3日 市民フォーラム** 地域包括ケアシステムを考える
基調講演 田城 孝雄先生 「今、なぜ在宅医療なのか？」
シンポジウム 「地域包括ケア時代」
- 2月11日 第17回在宅ケアネットワーク栃木フォーラム 共催**
基調講演Ⅰ 山崎一洋下野新聞記者「・・・『長期連載終章を生きる』を取材して」
基調講演Ⅱ 秋山正子白十字訪問看護ST統括所長「...暮らしの保健室で見えてきたこと」
- 2月24日 栃木県医師会と共催 在宅に関するフォーラム**
基調講演 飯島 勝矢先生 「超高齢社会を生きる 在宅への期待」
特別講演 玉木 朝子先生「衆院議員として取り組んだ難病対策と今後の課題」

メディアの活用

- ◆下野新聞や読売新聞などの在宅医療に関する記事等の取材協力
下野新聞「終章を生きる」 日本医療ジャーナリスト賞受賞
- ◆小山テレビ 9月9日開催のフォーラムを録画し、放送
- ◆NHK 在宅医療に関する情報提供
- ◆地元テレビ局の県広報番組で栃木県医師会とアスムスの紹介
「週刊とちぎ元気通信・とちぎの在宅医療
～自分らしい医療を受ける～」

栃木県医師会との連携

もう1つの拠点事業者 栃木県医師会と連携し活動

- ◆県医師会は12月に栃木県在宅療養支援診療所・病院連絡会を設立
- ◆県医師会前原副会長が看護協会訪問看護ステーションと連携し、
「在宅療養支援者の会(みぶの会)」定期的に多職種勉強会を実施。
- ◆医師会との連携は重要、常に連絡、協力し合い、県域全体を踏まえて拠点事業を推進している。
- ◆2月24日は、栃木県医師会との共催で、在宅医療フォーラムを開催。

まとめ

- ◆多職種協働を強化し、質の高い在宅ケアの提供につなげる
- ◆自治体、医師会、職能団体と「顔の見える」関係を強化し、信頼関係蓄積



点と点のつながりから面へのつながり

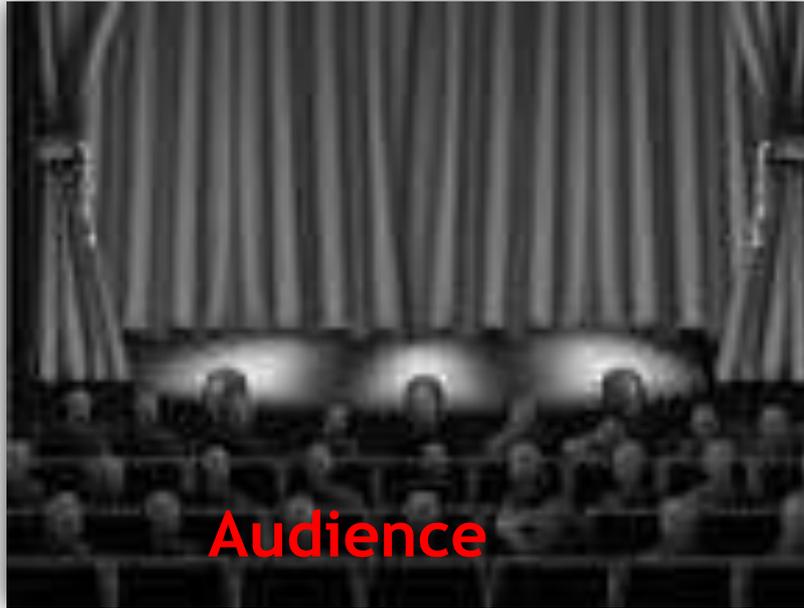


- ◆利用者も含め、行政・医師会、多職種協働でよりよいチーム医療を展開するためのモデル作りをしていく。



面のつながりから、縦横なつながり
文化をつくり、育てる地域づくり、まちづくりへとすすめる
(知識と経験、感動を共有することが文化をつくり育てます)

チーム医療を
クラシックコンサートにたとえると・・・



Composer



感動の共有

Player



Conductor

Orchestra = Team ?

Composer/Orchestra/Audience
= Team

◆在宅医療の普及・推進の指数は、最期を「どのように生きるか」の選択肢として、生活の場を選ぶ人の数が増えることだと考える。高齢者が自宅で最期を迎えることがあたりまえだった30数年前。今は、条件環境が大きく違ってきているが、希望すれば生活の場で最期まで過ごすことができる文化としての在宅医療、すなわち利用者と専門職の枠を超えて、知識と経験と感動を共有し、在宅療養に対する市民の意識改革を支援し、住み慣れた我が家で最期まで暮らせるコミュニティの構築に力を注いでいきたい。



地域に文化をつくる